

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079900223
法人名	社会福祉法人 鷹羽会
事業所名	グループホーム しじみ苑 B棟
所在地	福岡県田川郡大任町大字今任原3484-1
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和元年7月10日	評価結果確定日	令和2年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 家庭的な雰囲気の中で、共同生活を通して個々の意思・ライフスタイルを尊重しながら、自立支援に向けた介護を行えるように「ひとりがみんなのために・みんながひとりのために」の理念を実践できるように心掛けています。	2. 職員一人一人が利用者さんと生活を共にしていることを意識し、ゆっくりと関わりを持つことで落ち着いた環境に寄り添い、コミュニケーションを取る事で互いに刺激を取り入れながら生活しています。	3. 職員は、研修などに積極的に参加する事で、自らを向上することでより良い支援ができるように努めています。
---	--	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はユニット内に掲示し日々のケアの中で悩んだり・困った事などをその都度話し合い実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併用しているケアハウス・特別養護老人ホームとの合同での行事参加や・保育園・小学校・中学校との交流を行う。地域の方々とは、神幸祭・敬老会・文化祭(出品)に参加して、地域の方々との関わりに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して行政・地域包括支援センターの職員の方々と連携と取りながら地域の方々に取り組めるように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域包括センター・地区の代表・家族で構成している。2ヶ月1回の開催の中で、行事・事故報告書・困難事例・研修などで感じた事などを意見交換してサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政担当者の参加があり、事業所の状況を報告し、理解・把握して頂き、ご意見を頂く等協力関係にある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員それぞれが身体拘束について考え、身体拘束をしないケアを実践している。年1回は研修に参加して頂き、勉強会などで話し合うことで理解を深めていく取り組みを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加して頂き、勉強会などで話し合う。職員も経験が長くなり、何気ない言葉が傷つける事がある、認知症の方にとっては、その事がストレスになり症状に影響するので、その事を理解し実践している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用している人がいないのが、今後は必要とする可能性が十分あるので研修に参加し、職員間で共有できるように内部研修の機会を設けている。又、外部の方にも理解を得る為に資料等を設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学等を含め、話し合いの場を持つようにしている。その中で疑問や不安な点を聞くことで、理解をされ納得して頂けるようにいしきしている。契約時にをける利用者契約・重要事項説明の時に再度、疑問点や不安を確認することで、理解や納得して頂けるように心がけている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議開催時・意見箱の設置で意見を求めるようにしている。日頃より家族の面会が多くあり、家族には、利用者さんの近況報告・意見・要望などは話せる状態なので、その都度、解決・要望に沿えるように取り組んでいる。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り・ミーティングなどを活用し意見の出しやすい仕組みを作っている。内容によってはその場で話し合って可能な限り会話する機会を多く設けられるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境を維持できるように又改善が必要とあれば要望している。日頃から職員同士が成長できるように、向上心を持って勤務できるように努力している。希望休暇を確保しリフレッシュしてもらえるように努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集や採用については、年齢・性別等の制限はなく、旧ヘルパー（初任者研修）を基本としている。又産休や育児休暇や介護休暇も取り入れ復帰に際しての支援なども非常に働きやすい環境作りに取り組んでいる。職員の意見も聞いてくれたりと配慮してくださる。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権研修を受講し、内部研修で人権について話し合いながらみんなで話し合い意識の向上や理解に努めながら取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じた外部研修への参加を促し、個々の能力の向上に努めている。又研修で学んだ事を内部研修の報告として発表の場を作っている。資格取得に積極的になるように努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	田川地区介護サービス事業所協議会の専門部会・地域ケア参加することで、定期的な勉強会や他事業所との鋼管交流会などの活動を通じてサービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人様・家族様に見学に来て頂き、面談をし話を聴いたり、ご家族より身体状況・生活歴などの情報を頂き、職員で情報を共有活用し、本人様が安心して生活ができるように、向き合いながら信頼関係が築けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時点で、家族が現在抱えている不安・悩み・施設に対してどのような考えや思いを持っているかなどを、可能な限り理解し、どのように支援していけるかを家族と共に支えていけるように取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様の意向をしっかりと把握し、その方に今何が必要なのかを探りながら対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気大切に思っているので、利用者様の気持ちを受け入れながらも一緒に喜び・悲しみ・怒り・楽しみの関係が、築けるように努めている。その中でも職員は業務だと言う事を、認識しながら関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で本人の情報を伝えながら、家族の意向を伺っている。職員がすべての支援するのではなく、家族様に出来ることは行って頂き、共に支えていく関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・知人の方が来られたら、居室にてゆっくり過ごして頂くように支援を行っている。家族との外出・通院・食事などの機会を取り入れ、交流が途切れないように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様との共同生活をする中で、職員も共に生活をしている。職員は、入居者様同士の人間関係を把握し職員が調整役となっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所しても、今後も何かの縁で関係するかわからないので、いつでも遠慮なく相談に乗れることを伝え・いつでも連絡して頂きたいことを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、会話・表情・行動等から入居者様の思いを聞いたり・感じたり・気づきなどは職員間で共有し、意見を出し合ってケアに活かしている。困難な場合は、家族から情報を頂いている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしさを知るためには、本人・家族・日頃の生活の中からも情報収集を行っている。今までの生活を大切にしながら、馴染みの関係が早く築けるように支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム・心身の状態を把握し、小さな変化も気付けるように注意し、情報を共有している。状況変化に応じた対応が出来るように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様から意向を聞き、利用者様にとって何が重要かを職員間で意見を出し合って現状に合った介護計画を作成している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録(様子・言葉等)を活用し、身体状況や認知症の状態等の把握に努めている。些細なことでも情報共有し見直しに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様は、少しの環境変化・季節の変わりなどで体調変化・体調不良になりやすいのでその人にあったニーズが求められるので、その人にとって一番良さを家族・医療などと連携を取りながら支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身体状況にもよるが、買い物・食事・美容室など本人の意向を取り入れている。町内の行事・併設している施設との交流・保育園・小学校・中学校との交流やボランティアの訪問・季節行事にも出来るだけ参加してもらい、笑顔を引き出せるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から利用している病院の継続して受診できるようにしている。又、本人・家族の意向にそって受診介助を行っている。家族が付き添われる場合は、情報を共有し家族様から医師に相談される機会がある。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護さんが来苑されるので、些細な事・気になる事があればいつでも尋ねたり・相談出来るので、日々の健康管理などに反映している。また24時間体制で対応して頂けるので安心できる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医療期間と随時連携を行いながら退院までの流れを作るように努めている。又、入院中でも、家族・医療関係等と情報共有を図ったり、早期退院に向け取り組んでいる。他施設への転所の場合も情報交換や相談に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所するにあたり「看取りに関する指針」の説明をし理解して頂いている。に頃から利用者様の様子を家族に報告するとともに、重度化した場合は、主治医と連携を図りながら、家族様・職員全員と話し合い、方針を決めている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事等に備え、マニュアルを確認したり、研修等を行い急変・事故発生時に対応できるようにしている。今後も研修機会を増やし、実践力を身につける必要がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。避難訓練はおもに夜間想定し行う。消火訓練は併用しているケアハウスと合同で行う。又自主的には救急救命講習を受講している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で、嬉しい・楽しい・思いやりを大切の利用者様。職員が共有している。入居期間により馴染みの関係になりがちになるので、声掛け・介助の仕方などについて職員間で確認し話し合いながら支援を行っている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「本人がどうしたいか」「本人ならどうしたいか」を念頭に置き、日頃の様子を観察する事で「何をしてほしいか」「何をしたいか」をコミュニケーションを取りながら働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、個々の生活ペースを大切にしている。認知症により、意欲低下が見られる方に対しては、気持ちに寄り添いながらゆっくりと過ごして頂くようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんに好みの服を選んで頂いたりする事で、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。訪問美容室にてカットをお願いしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中、食べたい物や旬の物などを会話しながら楽しい時間を取り入れている。又・個々の能力に合わせ出来る範囲で手伝って頂くようにしている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の健康テック・パターンシートを作成し一目で把握等に努め、病歴等によって調整等が出来るように心掛けていく。水分摂取の進まない方は、飲み物に工夫し確保出来るように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合った口腔ケアを行い、自力で困難な方には、介助を行っている。口腔内の状況や義歯の状況を確認し、訪問歯科(週一回)と連携を取りながら支援をしている。又、夜間時には、義歯洗浄を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便のパターンを把握し、必要な方には時間をみてトイレ案内をしたり、職員に訴えかける様な視線を逃さないように心掛け、個々に合った対応に努めている。出来る限り自分で行って頂けるように介助・見守りを行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護より便秘が及ぼす影響などの指導のもと、個々の排便状況を把握し、水分量・食事の内容の工夫等を行い提供している。又、日常生活の中で、少しでも身体を動かす機会を増やせるように心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の身体状況に合わせ、週2回～3回入浴を提供している。状況によってはシャワー浴・足浴・清拭を行い、清潔の保持に努めている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、体調や状況により自由に休息出来るように支援している。又、昼食後は、下肢浮腫軽減のため1時間休んで頂いている。夜間時は、ゆっくり安眠出来るように見守りを重視している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が、薬の内容を理解しているが確認の為にケース記録に確認出来るようにしている。処方内容の変更があった場合は、職員間で情報を共有し、内服後の状態変化は十分観察を行い、主治医にも報告をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意な事を把握し、家事の手伝い(洗濯干し・タミ・テーブル拭き・食事のカタズケ・)をされたり、ぬりえ・パズル・計算など楽しく生活できるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の身体状況によるが、買い物・美容室などの支援や家族が病院受診される方は、外食をされたり、ドライブに行かれたり・自宅に帰られる。苑でも年に2回班に分かれ、食事会に行きます。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、金銭管理は家族様にお願いし、個人の物の購入は、立て替えている。2名の方は、施設が管理している。全家族には、毎月出金明細書・立て替え明細書・領収書を確認して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2名の方が携帯を持っている。、家族が登録している家族とのやりとりは携帯で行っているが理解の出来ないときは、変わり対応している。その他は、要望があれば支援している。家族や知人から電話があった時は、取り次いでいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節感を感じられる様に花や季節の行事の物を置いたりし、明るい雰囲気作りを心がけている。不快や混乱を招かないように十分に配慮している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みなさん、共有スペースで過ごされる。お話をされたり・テレビを観たり・パズル・歩行練習と共同で行ったり、個人で行ったりと思い思いで過ごしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者様が安心して過ごせるよう、家族様にご協力頂き、使い慣れたものを持って頂くようにしている。利用者様が、居心地よく安心して生活できるようにしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態を把握した上で、個々に合った身近で出来ることを探りながら、声掛け・見守りしながら・無理をせずに・自立した生活が送れるように支援していきたい。		